



# 上関原発を建てさせない 山口県民大集会2017

～福島を忘れない! さようなら上関原発!～

●3月25日 ●山口市維新百年記念公園 ●主催/上関原発を建てさせない山口県民連絡会



3500人が集い、上関原発反対の集会宣言をした



全国の反原発裁判闘争を支援する弁護士・「日本と原発」の映画監督 河合 弘之さん

「上関原発を建てさせない山口県民大集会2017(以下、集会)」には約3500人が参加した。原発が一度事故を起こせば取り返しのつかない事態になることを再確認し、絶対に上関原発は建てさせないという強い意志を表明する集会となった。スペシャルゲストとして招かれた、映画「日本と原発」の監督河合弘之さんは、「福島第一原発事故によって、福島では185人の子どもたちが甲状腺がんと診断され、145人が手術を受けた。原発事故による健康被害が広がっているのは明らかだ。一般と比べて500倍の発症率にも関わらず、政府や県は『因果関係は認めにくい』という立場だ。なぜか。因果関係がなければ放射能は怖くない。放射能が怖くないから再稼働してもかまわないという論理に導こうとしている。国を滅ぼしかねない原発は、絶対に再稼働も新設も許してはいけない。日本中の脱原発・自然エネルギー推進団体は団結して運動をすすめていこう」と呼びかけた。

グリーンコープやまぐち生協は集会に賛同し、チラシを全組合員に配布して参加を呼びかけた。当日はマルシェに出店し、産直びん牛乳の試飲をすすめながらグリーンコープの説明をしたり、グリーンコープの脱原発の取り組みやグリーンコープでんきについて伝えた。同じ脱原発への思いを持って集会に参加した人たちは、足を止めてグリーンコープでんきの話に耳を傾けた。でんきのアンケートに答える人も多く、当日グリーンコープ

プに加入する人もいた。やまぐち理事長の佐々木春代さんはグリーンコープでんきの取り組みについて「2月の地区総会に向けて、自分の言葉でグリーンコープでんきを語るように、なぜグリーンコープでんきに取り組みのか、グリーンコープの脱原発のあゆみや思いなどを、運動をすすめる活動組合員、職員で共有した後、いろいろな場を設けて学習会を重ねました。契約者が3月で500人を超えたのは、それぞれが『自分が主体となってやっつけていく』と考えているからだと思います」と明るく話した。マルシェでアピールした組合員は「グリーンコープでんきは原発がない社会をめざす意思表示にもなると伝えると、『それは凄く大事です。国民全体にそういう気持ちを広げていき、大手電力会社も変わってくればいいな』と言ってくれる人がいて、自分たちの活動に自信が持てました」と話した。



同じ脱原発の思いを持つ集会の参加者に産直びん牛乳の試飲をすすめる、グリーンコープでんきをアピールする組合員